



インストール・ガイド

Replication Server[®] 15.7.1

Windows

ドキュメント ID：DC37511-01-1571-01

改訂：2012年6月

Copyright © 2012 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

アップグレードは、ソフトウェア・リリースの所定の日時に定期的に提供されます。このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連のすべての商標は、米国またはその他の国での Oracle およびその関連会社の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

表記の規則	1
インストール作業の概要	5
インストール・タスク・フロー	5
Replication Server のコンポーネント	7
インストールの計画	9
Replication Server リリース・ノート	9
混合バージョンのサポート	9
SPDC または SMP からのライセンスの取得	10
SySAM ライセンス・サーバ	12
IPv6 の設定	12
SySAM ライセンスのチェックアウト	13
製品エディションとライセンス・タイプ	14
サブキャパシティ・ライセンス	16
システムの稼働条件	18
Windows プラットフォームでの Replication Server のシステム稼働条件	18
インストール・ディレクトリ構造	20
Windows での独自のディレクトリへの Replication Server のインストール	22
インストール・ディレクトリの内容とレイア ウト	24
インストールの設定オプション	25
インストール・モード	26
管理作業の実行	26
Replication Server のインストール	27
GUI モードでの Replication Server のインストール ...	27
Replication Server Data Assurance オプション のインストール	31

コンソール・モードでの Replication Server のインストール	31
応答ファイルを使用した Replication Server のインストール	32
応答ファイルの作成	32
応答ファイルを使用した GUI モードでのインストール	32
サイレント・モードでのインストール	33
インストール時に発生する問題のトラブルシューティング	34
コマンド・ライン・オプション	34
インストール後の作業	37
ログ・ファイル	37
RSSD 用 Adaptive Server	37
サンプル Replication Server の設定	38
sql.ini ファイルのサーバ・エントリ	39
Windows での環境変数	40
runserver ファイル	40
Replication Server 起動用 .bat ファイルの変更	41
Replication Server のアンインストール	43
GUI モードでのアンインストール	43
コンソール・モードでのアンインストール	44
サイレント・モードでのアンインストール	45
追加の説明や情報の入手	47
サポート・センタ	47
Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード	47
Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認	48
MySybase プロファイルの作成	48
アクセシビリティ機能	49
索引	51

表記の規則

ここでは、Sybase® マニュアルで使用しているスタイルおよび構文の表記規則について説明します。

表記の規則

構文要素	定義
等幅 (固定幅)	<ul style="list-style-type: none"> SQL およびプログラム・コード 表示されたとおりに入力する必要があるコマンド ファイル名 ディレクトリ名
斜体等幅	SQL またはプログラム・コードのスニペット内では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照)
<i>italic</i>	<ul style="list-style-type: none"> ファイルおよび変数の名前 他のトピックまたはマニュアルとの相互参照 本文中では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照) 用語解説に含まれているテキスト内の用語
bold sans serif	<ul style="list-style-type: none"> コマンド、関数、ストアド・プロシージャ、ユーティリティ、クラス、メソッドの名前 用語解説のエントリ (用語解説内) メニュー・オプションのパス 番号付きの作業または手順内では、クリックの対象となるボタン、チェック・ボックス、アイコンなどのユーザ・インタフェース (UI) 要素

必要に応じて、プレースホルダ (システムまたは設定固有の値) の説明が本文中に追加されます。次に例を示します。

次のコマンドを実行します。

```
installation directory¥start.bat
```

installation directory はアプリケーションがインストールされた場所です。

構文の表記規則

構文要素	定義
{ }	中カッコで囲まれたオプションの中から必ず1つ以上を選択する。コマンドには中カッコは入力しない。
[]	角カッコは、オプションを選択しても省略してもよいことを意味する。コマンドには角カッコは入力しない。
()	このカッコはコマンドの一部として入力する。
	縦線はオプションのうち1つのみを選択できることを意味する。
,	カンマは、表示されているオプションを必要な数だけ選択でき、選択したものをコマンドの一部として入力するときにカンマで区切ることを意味する。
...	省略記号(...)は、直前の要素を必要な回数だけ繰り返し指定できることを意味する。省略記号はコマンドには入力しない。

大文字と小文字の区別

- すべてのコマンド構文およびコマンドの例は、小文字で表記しています。ただし、複写コマンド名では、大文字と小文字が区別されません。たとえば、**RA_CONFIG**、**Ra_Config**、**ra_config** は、すべて同じです。
- 設定パラメータの名前では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、**Scan_Sleep_Max** は、**scan_sleep_max** とは異なり、パラメータ名としては無効になります。
- データベース・オブジェクト名は、複写コマンド内では、大文字と小文字が区別されません。ただし、複写コマンドで大文字と小文字が混在したオブジェクト名を使用する場合(プライマリ・データベースの大文字と小文字が混在したオブジェクト名と一致させる場合)、引用符でオブジェクト名を区切ります。次に例を示します。 **pdb_get_tables "TableName"**
- 識別子および文字データでは、使用しているソート順によっては大文字と小文字が区別されます。
 - “binary” などの大文字と小文字を区別するソート順を使用する場合には、識別子や文字データは、大文字と小文字を正しく入力してください。
 - “nocase” などの大文字と小文字を区別しないソート順を使用する場合には、識別子や文字データは、大文字と小文字をどのような組み合わせでも入力できます。

用語

Replication Agent™ は、Adaptive Server® Enterprise、Oracle、IBM DB2 UDB、Microsoft SQL Server 用の Replication Agent を表現するために使用される一般的な用語です。具体的な名前は、次のとおりです。

- RepAgent — Adaptive Server Enterprise 用の Replication Agent スレッド
- Replication Agent for Oracle
- Replication Agent for Microsoft SQL Server
- Replication Agent for UDB — Linux、Unix、Windows 用の IBM DB2

表記の規則

インストール作業の概要

Replication Server®を正常にインストールおよび設定するには、『Replication Server 設定ガイド』と『Replication Server インストール・ガイド』を参照してください。

『Replication Server インストール・ガイド Windows 版』では、Replication Server ソフトウェアを配布メディアからハード・ディスクにアンロードする方法について説明します。

『Replication Server 設定ガイド Windows 版』では、次の作業について説明します。

- 設定に向けてシステムを準備するために必要な情報を収集する。
- Replication Server を設定し、複製システムにデータベースを追加する。
- 既存の Replication Server システム・データベース (RSSD: Replication Server System Database) をアップグレードする。
- 既存の RSSD をダウングレードし、以前のバージョンのソフトウェアを再インストールする。
- Replication Server または RepAgent のパスワードの暗号化を有効にする。
- Replication Server または RepAgent を起動および停止する。

『Replication Server 設定ガイド Windows 版』の「Replication Server のインストールと設定の準備」には、インストール・ワークシートやデータベース設定ワークシートなど、複製システムのプラン作成に役立つ情報が含まれています。

インストール・タスク・フロー

タスク・フローによって、計画、インストール、およびアンインストールを含む完全なパスが定義されます。

シナリオを最もよく表すパスを選択してください。

注意：このトピックを印刷し、チェックリストとして使用してください。

製品の初回インストール

1. インストールを計画し、システムの稼動条件を確認します。「インストールの計画」(9 ページ)および「システムの稼動条件」(18 ページ)を参照してください。
2. Replication Server をインストールします。「Replication Server のインストール」(27 ページ)を参照してください。

インストール作業の概要

3. インストール後の作業を実行します。「インストール後の作業」(37 ページ)を参照してください。

Replication Server のアンインストール

Replication Server をアンインストールします。「Replication Server のアンインストール」(43 ページ)を参照してください。

Replication Server のコンポーネント

Replication Server ソフトウェアには、複数のコンポーネントの他に、さまざまなサポート・ファイルが含まれています。

Replication Server は、次のコンポーネントで構成されています。

- Replication Server
- Replication Server サポート・ファイル (スクリプト・ファイルや設定ファイルなど)
- SQL Anywhere® for Embedded Replication Server システム・データベース (ERSSD)
- ERSSD 用 RepAgent

Replication Server のコンポーネント

インストールの計画

インストールまたはアップグレード前に、環境を準備します。

- インストールまたはアップグレードするコンポーネントとオプションを確認します。
- ライセンスを取得します。

注意： サード・ライセンスを使用する場合は、SySAM ライセンス・サーバ・バージョン 2.1 以降をインストールする必要があります。

- システムのすべての稼働条件がインストール・シナリオおよび用途に一致していることを確認します。

Replication Server リリース・ノート

『リリース・ノート』には最新情報が含まれています。

『リリース・ノート』には、Replication Server ソフトウェアのインストールとアップグレードに関する最新の情報が含まれています。

最新のリリース・ノートは、Sybase 製品マニュアル Web サイト (<http://www.sybase.com/support/manuals>) から入手できます。

混合バージョンのサポート

混合バージョン環境では、Replication Server はバージョン 12.6 以降である必要があります。

複製システム・ドメインに Replication Server 15.5 以降がある場合は、複製システム・ドメインのシステム・バージョンとルート・バージョンが 12.6 以降でなければなりません。Replication Server 15.5 は、12.6 より前のバージョンが含まれている混合バージョン環境をサポートしていません。

使用しているプラットフォームの『Replication Server 設定ガイド』の「バージョン 15.5 以降へのアップグレード要件」を参照してください。

注意： 12.6 より前のバージョンからのアップグレードには中間アップグレードが必要です。使用しているプラットフォームの『Replication Server 設定ガイド』の「Replication Server のアップグレードまたはダウングレード」を参照してください。

SPDC または SMP からのライセンスの取得

製品をインストールする前に、SySAM ライセンス・モデルを選択し、ライセンス・サーバ情報を決定し、ライセンス・ファイルを取得します。

SySAM 2 対応の Sybase 製品を購入したときに、SySAM 製品ライセンスを生成し、ダウンロードして、配備する必要があります。

- Sybase または Sybase 認定販売店から製品を購入した場合は、セキュアな Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) (<https://sybase.subscribenet.com>) にアクセスしてログインし、ライセンス・キーを生成します。ライセンスの生成プロセスは、製品の注文先が Sybase か Sybase 再販業者かによって若干異なる場合があります。
- SAP® コントラクトで製品を注文し、SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) からダウンロードするよう指示された場合は、<http://service.sap.com/licensekeys> で SMP を使用して、SySAM 2 ベースのライセンスを使用する Sybase 製品のライセンス・キーを生成します。

1. SySAM ライセンス・モデルを選択します。

ライセンス・モデル	説明
[アンサーブド・ライセンス・モデル]	ライセンス・ファイルからライセンスを直接取得します。アンサーブド・ライセンスを使用する場合は、製品をインストールするマシンにライセンスを保存する必要があります。
[サブド・ライセンス・モデル]	複数マシンに対するライセンスの割り当てをライセンス・サーバを使用して管理します。

2. サブド・ライセンス・モデルを選択する場合、既存のライセンス・サーバを使用するか、新しいライセンス・サーバを使用するかを決定してください。

ライセンス・サーバと製品は、インストールするマシン、オペレーティング・システム、またはアーキテクチャが同じである必要はありません。

3. サブド・ライセンス・モデルを選択した場合は、次の手順に従います。

- SySAM 1.0 ライセンス・サーバを実行しているマシンに製品をインストールする場合、『SySAM ユーザーズ・ガイド』のマイグレーションの指示に従い、新しい SySAM バージョンにマイグレートします。

注意： 指定したマシンに、実行している SySAM ライセンス・サーバのインスタンスが 1 つしかない場合もあります。すでに SySAM 1.0 ライセンス・サーバ

を実行しているマシンで SySAM 2 ライセンス・サーバをセットアップするには、古いライセンス・サーバを SySAM 2 にマイグレートする必要があります。マイグレートされたライセンス・サーバは、SySAM 1.0 に対する製品と SySAM 2 に対する製品の両方にライセンスを提供できます。

4. ホスト ID を取得します。

Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) または SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) でライセンスを生成するときに、ライセンスを配備するマシンのホスト ID を指定する必要があります。

- アンサーブド・ライセンスの場合 — 製品を実行するマシンのホスト ID。SySAM サブキャパシティをサポートする製品を CPU ごとまたはチップごとのライセンスで実行していて、その製品を仮想化環境で実行する場合は、『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティ・ライセンス」を参照してください。
- サーブド・ライセンスの場合 — ライセンス・サーバを実行するマシンのホスト ID。

5. Sybase または Sybase 認定販売店から入手したアクセス情報を使用して、SPDC または SMP からライセンス・ファイルを取得してから、製品をインストールします。

Welcome メール・メッセージの情報を使用して SPDC または SMP にログインしてください。

注意： Sybase 認定販売店から Sybase ソフトウェアを購入した場合は、電子メール・メッセージではなく Web キーが送付される場合があります。

サブキャパシティ・ライセンスを使用する予定がある場合は、**sysamcap** ユーティリティを使用するための設定方法について『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

sysadmin lmconfig を使用して、Replication Server でライセンスの管理に関連する情報を構成して示します。『Replication Server リファレンス・マニュアル』の「Replication Server コマンド」の「**sysadmin lmconfig**」を参照してください。

参照：

- 製品エディションとライセンス・タイプ (14 ページ)

SySAM ライセンス・サーバ

必要な SySAM ライセンス・サーバのバージョンがインストールされていることを確認します。Replication Server 15.5 以降には、プラットフォームごとに異なる FLEXnet Publisher ライセンス・サーバ・マネージャが含まれています。

- ライセンス・サーバのバージョン
インストールする SySAM ライセンス・サーバは 2.1 以降である必要があります。現在のライセンス・サーバのバージョンを確認するには、**sysam version** コマンドを使用します。

注意：バージョン 2.0 以前のライセンス・サーバでは、このコマンドは使用できません。

最新のライセンス・サーバは、SySAM ライセンス・サーバとユーティリティのインストールの Web サイト (<http://www.sybase.com/sysam/server>) からダウンロードしてください。

- FLEXnet Publisher のバージョン

表 1 : Windows プラットフォームでサポートされている FLEXnet Publisher のバージョン

プラットフォーム	FLEXnet Publisher のバージョン
Windows (32 ビット版)	11.6.1
Windows (64 ビット版)	11.5

SySAM ライセンス・サーバを使用する場合は、SySAM ライセンス・サーバを少なくともバージョン 2.1 (すべてのプラットフォームの FLEXnet Publisher バージョン 11.6.1 ライセンス・サーバ・コンポーネントが含まれます) に更新してから、Replication Server 15.7.1 をインストールする必要があります。ライセンス・サーバのバージョンを確認するには、ライセンス・サーバのログを調べるか、次のコマンドを実行します。

```
cd %SYBASE%\SYSAM-2_0\bin
lmutil lmver lmgrd
```

IPv6 の設定

sysam configure コマンドを使用して、環境に適したライセンス・サーバのバージョンを選択してください。

Replication Server には、IPv4 および IPv6 バージョンの SySAM ライセンス・サーバのソフトウェアが含まれています。デフォルトでは、IPv4 バージョンの SySAM ライセンス・サーバを使用するように設定されます。

ライセンス・サーバ・ホストで IPv6 を有効にしている場合は、IPv4 バージョンのライセンス・サーバを正しく使用できません。この場合、次のように対応できません。

- ライセンス・サーバ・ホストで IPv6 TCP/IP プロトコルを無効にします。
- IPv6 を有効にしていない別の Windows ホストを使用します。
- ライセンス・サーバに Unix ホストを使用します。UNIX では IPv4 と IPv6 の両方が有効になっていても、IPv4 バージョンのライセンスを使用できます。

Windows ホストで IPv6 バージョンのライセンス・サーバを使用している場合は、IPv6 プロトコルを介してのみこのライセンス・サーバにアクセスできます。IPv4 専用のネットワーク・スタックを持つホストは、この IPv6 ライセンス・サーバからライセンスを取得できません。この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- ライセンス・サーバに Unix ホストを使用します。UNIX 上のライセンス・サーバは、IPv4 と IPv6 の両方のクライアント・ホストに対してライセンス処理を実行できます。
- 2 台の別々の Windows マシンを使用します。ネットワーク内の異なる 2 つのホスト上にライセンス・サーバを 2 つ設定して、1 つを IPv4 ネットワーク用、もう 1 つを IPv6 ネットワーク用とします。

次の SySAM スクリプトを使用すると、適切なバージョンのライセンス・サーバを設定できます。

```
sysam configure [IPv6|IPv4]
```

たとえば、IPv4/IPv6 デュアル・スタック・バイナリの使用を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
sysam configure IPv6
```

SySAM ライセンスのチェックアウト

15.6 より前のバージョンでは、プロセッサごとのライセンス・タイプを使用して Replication Server がライセンスされた場合、ライセンス数は起動時に決定されていました。

このリリースでは、Replication Server は使用できるプロセッサの数を定期的にチェックして、増加した場合は追加のライセンスのチェックアウトを試行します。30 日の猶予期間内に追加のライセンスが使用可能にならない場合、この期間が終了すると、Replication Server はシャットダウンします。

『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

製品エディションとライセンス・タイプ

Replication Server は、Enterprise Edition (EE) と Real-Time Loading Edition (RTLE) の 2 つの異なる製品エディションとしてリリースされました。これらは、異なるベースとオプション機能で構成されており、別々のライセンスが必要です。

注意： SPDC の他に、Replication Server Enterprise Edition (ベース Replication Server、Advanced Services Option、Data Assurance オプションなど) も SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) でのダウンロードやライセンス生成が可能です。

表 2 : Enterprise Edition の機能とライセンス

機能の種類	機能	説明	ライセンス
ベース	Replication Server	Advanced Services Option、ExpressConnect for Oracle、Real-Time Loading 以外の Replication Server の機能。	REP_SERVER
オプション	Advanced Services Option	Replication Server のパフォーマンス強化機能。次の機能強化があります。 <ul style="list-style-type: none"> • High Volume Adaptive Replication (HVAR) • データ・サーバ・インタフェース (DSI) 効率の向上 • RepAgent エグゼキュータ・スレッドの効率の向上 • ディストリビュータ・スレッドの読み込み効率の向上 • メモリ割り付けの強化 • キューのブロック・サイズの増加 • マルチパス・レプリケーション 	REP_HVAR_ASE
	ExpressConnect for Oracle	Replication Server を Oracle に直接接続できるようにする。Replication Server Options 15.7.1 の製品マニュアルを参照。	REP_EC_ORA
	Data Assurance オプション	データ検証ツール。	『Replication Server Data Assurance オプション・インストール・ガイド』を参照。

表 3 : Real-Time Loading Edition の機能とライセンス

機能の種類	機能	説明	ライセンス
ベース	Replication Server	Advanced Services Option、ExpressConnect for Oracle、Real-Time Loading 以外の Replication Server の機能。	REP_SERVER
	Real-Time Loading (RTL)	Adaptive Server® および Oracle から Sybase® IQ への複写を可能にする。 注意： Real-Time Loading Edition を使用して Adaptive Server または Oracle に複写することはできません。	REP_RTL_IQ
	Advanced Services Option	Replication Server のパフォーマンス強化機能。次の機能強化があります。 <ul style="list-style-type: none"> • High Volume Adaptive Replication (HVAR) • データ・サーバ・インタフェース (DSI) 効率の向上 • RepAgent エグゼキュータ・スレッドの効率の向上 • ディストリビュータ・スレッドの読み込み効率の向上 • メモリ割り付けの強化 • キューのブロック・サイズの増加 	REP_HVAR_ASE
	Replication Agent for Oracle	プライマリ・データ・サーバとして Oracle に接続できる Replication Agent for Oracle を含む。	RTL には Replication Server Options のライセンスが含まれる。

Sybase Control Center ライセンス

Sybase Control Center (Replication Server、Replication Server Data Assurance オプションなど) で管理される製品の有料ライセンスをお持ちの場合、Sybase Control Center のライセンスは無料で提供されます。評価ライセンスも入手可能です。

ライセンスを取得する必要はありません。インストーラには次のライセンス・オプションがあります。

- [Sybase Control Center Suite のライセンス取得済みコピーのインストール] – Sybase Control Center で管理される製品の有料ライセンスをお持ちの場合は、こ

インストールの計画

のオプションをインストールします。永久 (期限なし) ライセンスの下に Sybase Control Center がインストールされます。

- [Sybase Control Center Suite の評価] – Sybase Control Center で管理される製品の有料ライセンスをお持ちでない場合、または Sybase Control Center の永久コピーをインストールしない場合は、このオプションを選択します。評価ライセンスは、30 日後に有効期限が切れます。

詳細については、『Sybase Control Center 3.2.6 Installation Guide』を参照してください。

Replication Server と Sybase IQ InfoPrimer の統合ライセンス

特別なライセンスの要件は Replication Server と Sybase IQ InfoPrimer の統合に適用されます。

表 4 : Replication Server と Sybase IQ InfoPrimer の統合ライセンス

製品	機能	説明	ライセンス
Replication Server	Real-Time Loading (RTL)	Adaptive Server から Sybase IQ へのレプリケーションを可能にします。 注意： Real-Time Loading Edition を使用して Adaptive Server または Oracle に複写することはできません。	REP_RTL_IQ
Sybase IQ InfoPrimer 15.3	Sybase IQ InfoPrimer	Adaptive Server からのデータの抽出およびロードと、Sybase IQ でのデータの変換に使用されます。	SY_INFOPRIMER_SERVER

サブキャパシティ・ライセンス

Sybase が提供するサブキャパシティ・ライセンスは、物理マシンで利用可能な CPU のサブセット上にある Sybase 製品をライセンスの対象とします。

プラットフォームのサポート

表 5 : SySAM 仮想化サブキャパシティの互換性

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
HP	nPar	HP IA 11.31	物理パーティション
	vPar		仮想パーティション

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
	Integrity Virtual Machines およびリソース・マネージャ		仮想マシン
	セキュア・リソース・パーティション		OS コンテナ
IBM	LPAR	AIX 6.1、AIX 7	仮想パーティション
	dLPAR		仮想パーティション
Oracle	動的システム・ドメイン	Solaris 10	物理パーティション
	Solaris コンテナ/ゾーン および Solaris リソース・マネージャ		OS パーティション
Intel、AMD	VMWare ESX Server ゲスト O/S : Windows、Linux、および Solaris x64 VMWare Workstation および VMWare Server は、VMWare ESX Server に含まれません。	VMWare ESX 3.5、ESX 4.0 および ESX 4.1、ゲスト OS : Windows 2008 R2、Windows 7、Red Hat 5.6、SuSE 11、Solaris x64	仮想マシン
	Xen、DomainU : Windows および Linux Xen に Solaris x64 は含まれません。	Windows 2008 R2、Windows 7、Red Hat 5.6、および SuSe 11	仮想マシン

Sybase サブキャパシティ・ライセンスの有効化

サブキャパシティ・ライセンスを有効にするには、事前に Sybase とのサブキャパシティ・ライセンス契約が必要になります。Sybase の他のライセンスと同様に、ライセンス・キーを生成する必要があります。具体的な手順については、『SySAM クイック・スタート・ガイド』を参照してください。

注意：ライセンス・サーバを最新の状態に保ってください。

インストール・メディアには最新の SySAM ライセンス・サーバのコピーが含まれますが、SySAM スタンドアロン・ライセンス・サーバの Web サイト (<http://www.sybase.com/sysam/server>) で定期的にライセンス・サーバの更新をチェックすることをおすすめします。

稼働条件

SySAM サブキャパシティ・ライセンスを使用するときは、インストール前に SYBASE_SAM_CAPACITY 環境変数を設定する必要があります。または、インストール後にライセンス・キーに環境変数をコピーすることもできます。

サブキャパシティのライセンスを使用する場合は、次のいずれかを実行します。

- SYBASE_SAM_CAPACITY 環境変数を設定してからインストーラを起動します。
『SySAM ユーザーズ・ガイド』の「SySAM サブキャパシティの設定」で説明されている手順に従います。ただし、サブキャパシティ対応の Sybase 製品を起動するのではなく、インストーラを起動します。インストーラには、**sysamcap** コーティリティが `sysam_utilities/bin` に含まれています。
- インストール時に [Sybase ソフトウェア資産管理ライセンス] ウィンドウで [ライセンス・キーなしでインストールを続行] を選択します。インストール後に、`installed_directory/SYSAM-2_0/licenses` ディレクトリにライセンス・キーをコピーします。`installed_directory` は、コンポーネントをインストールした場所です。

システムの稼働条件

Replication Server のインストール先のサーバのシステム稼働条件とシステム・パッチを確認します。

Windows プラットフォームでの Replication Server のシステム稼働条件

実行しているオペレーティング・システムがサポートされていることと、Windows 版のサンプル Replication Server の設定と実行に十分な空き領域があることを確認します。

項目	稼働条件
CPU	Pentium プロセッサ。
RAM	512MB 以上の RAM。

項目	稼働条件
ディスク領域	<p>フル・インストールの場合、必要なディスク領域の合計は約 750MB です。</p> <p>必要なディスク領域：</p> <ul style="list-style-type: none"> • Replication Server ソフトウェア、サポート・ファイル、ログ・ファイル用に 450MB。 • DA オプションをインストールする場合は 300MB。 • Replication Server のディスク・パーティションごとに 20MB。ディスク・パーティションは、Sybase ソフトウェアと別のディスクに存在してもかまわない。 • インストール時の一時的な使用のために 30MB。 <p>下記のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> • Embedded Replication Server システム・データベース (ERSSD) を使用していない場合は、RSSD として機能する Adaptive Server Enterprise データベース用ディスク領域。システム稼働条件については、Adaptive Server Enterprise のマニュアルを参照。 • ERSSD として機能する SQL Anywhere[®] データベース用に 80MB。データベース・ディレクトリ、トランザクション・ログ・ディレクトリ、バックアップ・ディレクトリ用に合計 80MB。各ディレクトリをそれぞれ別のディスクに配置する。 <p>使用する複写システムのアプリケーションによっては、さらにディスク領域が必要になる場合がある。</p>
オペレーティング・システム	<p>下記のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows XP Professional、Service Pack 2 以降 • Windows Server 2008 R2 • Windows 7 <p>Windows 64 ビット版に Replication Server をインストールする場合、Microsoft Web サイトから最新のセキュリティ更新プログラムをダウンロードし、インストールします。</p> <p>x86 または x64 Windows プラットフォームの関連の Microsoft Visual Studio 2005 パッチをインストールしてからインストールを開始してください。</p> <p>Microsoft Visual C++ 2005 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ ATL のセキュリティ更新プログラムをダウンロードします (http://www.microsoft.com/download/en/details.aspx?amp;displaylang=en&id=26347)。</p>

項目	稼働条件
追加のハードウェア	パフォーマンス向上のために、32 ビット以上のネットワーク・カードを推奨。
サポートするプロトコル	TCP/IP、IPX/SPX、Microsoft 名前付きパイプ。

オペレーティング・システム・パッチの要件

Replication Server をインストールする前に、使用しているオペレーティング・システムが最新のパッチ・レベルであることを確認します。

使用しているオペレーティング・システムに Service Pack が必要な場合は、Service Pack をインストールしてから Replication Server をインストールしてください。Service Pack の詳しいリストについては、オペレーティング・システム担当者にお問い合わせるか、使用しているプラットフォームの最新の『Replication Server リリース・ノート』を確認してください。まず、システムにインストールされているオペレーティング・システムの Service Pack のレベルと、オペレーティング・システムのビルド番号を確認します。

注意： 使用しているオペレーティング・システムで推奨されるバージョンよりも前の Service Pack は使用しないでください。新しい Service Pack がある場合は、新しい Service Pack を使用してください。

Windows プラットフォームでの Service Pack の確認

Windows の最新の Service Pack システム・レベルとビルド番号を確認します。

1. [スタート]>[プログラム]>[アクセサリ]>[Windows エクスプローラ] を選択します。
2. [ヘルプ] メニューを選択し、[バージョン情報] をクリックします。
3. バージョン情報に記載されている Service Pack の番号を確認します。

次の例では、xxxx がビルド番号、n が Service Pack の番号です。

```
Version 5.0 (Build xxxx: Service Pack n)
```

インストール・ディレクトリ構造

インストールされるコンポーネントに使用するインストール・ディレクトリ、サブディレクトリ階層、命名規則の概要について説明します。

Replication Server のほとんどのコンポーネントは、実行プログラム、インストール・ツールと設定ツール、コンポーネントに必要な表示関連ファイルとともに、独自のサブディレクトリにインストールされます。サブディレクトリの命名規則

では、REP (Replication Server の場合) や OCS (Open Client™ および Open Server™ の場合) などのコンポーネント識別子と、ソフトウェア・リリース・バージョンが含まれます。

Replication Server 15.7.1 には、新しいバージョンの Replication Server と多数のサポート・コンポーネントが含まれています。他の Sybase 製品には、同じコンポーネントの旧バージョンが含まれていることがあります。Replication Server 15.7.1 は、このような既存の製品と同じディレクトリにインストールできます。

ただし、他の Sybase 製品を使用している場合に Replication Server 15.7.1 をインストールすると、一部の環境変数を変更されることがあります。この場合、個々の製品が動作するように、環境変数を再設定してください。

注意： Replication Server 15.7.1 は、Adaptive Server Enterprise と Open Client および Open Server バージョン 15.5 以降と同じディレクトリにインストールできます。

Replication Server 15.7.1 は、InstallShield インストーラを使用してインストールされている古い Sybase 製品と同じディレクトリにインストールしている場合は、アンインストールしないことをおすすめします。アンインストールした場合、製品が正しく動作しなくなることがあります。

Replication Server 15.7.1 は、同じ %SYBASE% ディレクトリの Replication Server 12.6 以降の上にインストールできます。これによって、SAMPLE_RS (サンプル Replication Server) の sql.ini ファイルに重複するエントリが作成されます。rs_init によってこの重複エントリに関する警告が表示され、sql.ini ファイルで最初に見つかった SAMPLE_RS のインスタンスが使用されます。『Replication Server 設定ガイド』の「既存のディレクトリを使用したアップグレードとダウングレード」を参照してください。

制約

Replication Server バージョン 15.7.1 を次の Sybase 製品の上にインストールしないでください。

- Replication Server バージョン 12.5 以前
- Adaptive Server バージョン 12.5.0.x またはそれ以前
- Adaptive Server バージョン 12.x (64 ビット版)
- Open Client および Open Server バージョン 12.5.0 またはそれ以前
- OpenSwitch™ バージョン 12.5 またはそれ以前
- DirectConnect™ バージョン 12.5 以前

上記の旧バージョンの製品の上に Replication Server バージョン 15.6 をインストールすると、これらの製品の機能が損なわれ、他の Sybase 製品にも悪影響を及ぼす可能性があります。このようなインストールを実行した場合、アンインストール

によって元の状態に戻すことはできません。アンインストールすると、Replication Server バージョン 15.7.1 によって更新された旧 Sybase 製品の必須コンポーネントが削除される可能性があるためです。したがって、Replication Server バージョン 15.7.1 をインストールする前に、現在のディレクトリをバックアップしておくことをおすすめします。

Adaptive Server バージョン 15.0.x を格納する既存の Sybase インストール・ディレクトリに Replication Server 15.7.1 をインストールする場合、新しいファイルの上に古い locales または charset ファイルをインストールするかどうかを確認するメッセージが表示されることがあります。これらのファイルの最新バージョンを保持するには、[すべていいえ] を選択します。

共有コンポーネントは、コンポーネントのサブディレクトリとは別のサブディレクトリにインストールされます。たとえば、Replication Server のサブディレクトリは %SYBASE%\\$REP-15_5 です。ただし、Open Client は %SYBASE%\\$OCS-15_0SQL Anywhere は Replication Server 専用であるため、例外として %SYBASE%\\$REP-15_5\ASA12 にインストールされます。その結果、このディレクトリ構造では、既存の %SYBASE% ディレクトリ構造へのインストールが可能であるだけでなく、特定のコンポーネントの複数バージョンをインストールして使用できます。

ヒント： %SYBASE% サブディレクトリを参照するカスタム・アプリケーションまたはカスタム・スクリプトがすでにインストールされている場合は、新しいインストール・ディレクトリ構造が反映されるように、それらのアプリケーションまたはスクリプトを変更してください。

内部処理に関する情報を取得して表示するための診断サーバ (REP-15_5\bin \\$drepsrvr.exe) がインストールされます。このプログラムは削除しないでください。Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタでは、Replication Server の問題を診断および解決するために、このプログラムを使用するようお願いすることがあります。

注意： また、実際のディレクトリ構造は、インストールするコンポーネントによって、この内容と異なる場合があります。

Windows での独自のディレクトリへの Replication Server のインストール

独自のディレクトリに Replication Server をインストールすると、他の Sybase 製品の環境変数がリセットされ、予期できない結果が生じる場合があります。

1. Replication Server をインストールしているシステムで実行中の Sybase プロセスを、SySAM ライセンス・サーバも含め (アップグレードの予定がある場合) すべて終了します。

注意： システムでどのプロセスが実行されているのかわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

SySAM ライセンス・サーバを停止する方法については、『SySAM ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

2. 既存の Adaptive Server が Windows サービスとして実行されている場合は、次の手順に従ってそのサービスを無効にします。
 - a) [スタート]>[設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]をクリックします。
 - b) [サービス] リストで、[Sybase SQLServer]*server name* を右クリックします。
 - c) [プロパティ] を選択します。
 - d) [スタートアップの種類] を [無効] に設定します。
 - e) [サービス] ウィンドウを閉じます。

3. 次のコマンドを入力して、env.orig というファイルの現在の環境変数の設定を記録します。

```
set > env.orig
```

このファイルの内容は、テキスト・エディタで確認できます。

具体的には、次の環境変数の現在の値を記録しておきます。

- INCLUDE
 - LIB
 - LM_LICENSE_FILE
 - PATH
 - SYBASE
 - SYBASE_JRE
4. Replication Server のメディアを適切なドライブに挿入するか、Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) または SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) から Replication Server インストール・イメージをダウンロードして抽出します。
 5. Replication Server をインストールします。
 6. Replication Server 製品の独自のディレクトリを指定します。
 7. ライセンス・サーバのホスト名とポート番号を指定します。
 8. 環境変数を手順 3 で記録した元の設定に変更します。
 - a) [スタート]>[設定]>[コントロール パネル]>[システム] を選択します。
 - b) [詳細設定] タブをクリックします。
 - c) [環境変数] を選択します。
 - d) [システム環境変数] で、手順 3 で示した変数の値を変更します。
 9. 自動的に起動するように Adaptive Server を設定します。

インストールの計画

- a) [スタート]>[設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b) [サービス] リストで、[Sybase SQLServer]*server name* を右クリックします。
- c) [プロパティ] をクリックします。
- d) [スタートアップの種類] を [自動] に設定します。

10. システムを再起動します。

注意： Replication Server を独自のインストール・ディレクトリにインストールした場合、2つの `sql.ini` ファイルを管理する必要があります。1つは Replication Server コンポーネント用であり、もう1つは他の Sybase アプリケーション用です。

参照：

- Windows での環境変数 (40 ページ)
- GUI モードでの Replication Server のインストール (27 ページ)

インストール・ディレクトリの内容とレイアウト

使用しているマシン上の Sybase インストール・ディレクトリにインストールされた Replication Server コンポーネントのリストを確認します。

%SYBASE% 内：

- `charsets` - 文字セットとソート順。
- `collate` - Unicode
- `ini` - 初期化ファイル (`mnemonic.dat`、`objectid.dat`、`sql.ini`、`trusted.txt` など)。
- `locales` - Open Client および Open Server 用のローカライゼーション・ファイルと、Replication Server が使用するその他のコンポーネント。Replication Server 固有のローカライゼーション・ファイルは含まれない。
- `log` - インストール・プロセスのログ・ファイル。
- `OCS-15_0` - Open Client および Open Server のディレクトリとファイル (`bin`、`dll`、`include`、`ini`、`lib`、`lib3p`、`sample`、`scripts` など)。
- `REP-15_5` - Replication Server 15.7.1 のファイル (`ASA12`、`bin`、`certificates`、`devlib` (32 ビット・プラットフォーム)、`devlib64` (64 ビット・プラットフォーム)、`doc`、`init`、`install`、`lib` (32 ビット・プラットフォーム)、`lib64` (64 ビット・プラットフォーム)、`lib3p` (32 ビット・プラットフォーム)、`lib3p64` (64 ビット・プラットフォーム)、`locales`、

REFIMP-01_0、samp_repserver、scripts、sysam、ThirdPartyLegal、upgrade など)。

- Sybase_Install_Registry – Sybase 製品のレジストリ情報を保管するために使用され、インストールおよびアンインストールしたソフトウェアのバージョンが記録される。si_reg.xml ファイルは %SYBASE%¥Sybase_Install_Registry ディレクトリにインストールされる。

警告！ si_reg.xml を変更または削除すると、今回のインストール作業の後に Sybase ソフトウェアをインストールまたはアンインストールするときに、インストールしたコンポーネントのバージョンをインストーラで正確に管理できなくなります。

- sybuninstall – アンインストーラで Replication Server ソフトウェアのアンインストールに使用されるファイル。
- SYSAM-2_0 – ソフトウェアの License Manager ファイル (bin、licenses、locales、log)。
- SYBASE.bat、SYBASE.env – 環境変数の再設定に使用する、インストーラによって作成されるファイル。

インストールの設定オプション

実際の設定に該当する Replication Server インストール・オプションを決定します。[標準] がデフォルト・オプションです。

Replication Server **setup** プログラムには、次のインストール・オプションがありません。

- 標準 (デフォルト) – ほとんどのユーザにとって役立つと考えられる Replication Server コンポーネントがインストールされます。このインストールでは、英語の言語モジュールと、そのモジュールでサポートされている文字セットだけがインストールされます。インストールが開始される前に、インストールされるコンポーネントのリストと必要な総ディスク領域が表示されます。
- フル – サポートされるすべての言語モジュールを含むすべての Replication Server コンポーネントがインストール・メディアからインストールされます。インストールが開始される前に、インストールされるコンポーネントのリストと必要な総ディスク領域が表示されます。
- カスタム – インストールするコンポーネントを選択できます。詳しい知識を持つユーザ向けです。

注意： 選択した他のコンポーネントを実行するために特定のコンポーネントが必要な場合は、それらのコンポーネントが自動的にインストールされます。

インストール・モード

使用するインストール・モードを決定します。GUI モードがデフォルト・モードです。

次のモードのいずれかを使用して、Replication Server をインストールできます。

- グラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI) – 対話型ユーザ・モードでコンポーネントをインストールできます。
- コンソール – コマンド・ライン環境でコンポーネントをインストールできます。
- 応答ファイル – 応答ファイルを記録または作成できます。応答ファイルを使用すると、次の 2 とおりの方法で Replication Server をインストールできます。
 - サイレント – インストールの各設定を応答ファイルに保存し、ユーザによる操作を必要としないで製品をインストールします。これは、複数のマシンに同一のインストール作業を行う場合に便利です。
 - 応答ファイルを使用した対話型インストール – 対話形式でインストールしますが、すべての応答がすでに入力されているため、すべてのデフォルト値を受け入れ、応答ファイル内の応答に従って Replication Server をインストールできます。この方法は、一部のサイトで Replication Server を非グラフィカル・ユーザ・インタフェース環境でインストールしており、いくつかの変更を加えて標準インストールを実行する必要がある場合に便利です。

管理作業の実行

管理作業は、インストール・プロセスを開始する前に完了しておく必要があります。

1. 現在の複写システムをバックアップします。
2. Windows の管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。
3. インストール済みの Sybase のコンポーネントなど、開いているアプリケーションまたはユーティリティを閉じて、ディスク領域とシステム・リソースを解放します。
4. インストール・ディレクトリのディレクトリ名にスペースが含まれていないことを確認します。

Replication Server のインストール

選択した方法を使用して Replication Server をインストールします。

前提条件

インストール計画の作業を完了します。

手順

1. インストール方法を選択します。
 - GUI モード (推奨)
 - コンソール・モード
 - 応答ファイル
2. 選択した方法の手順に従います。
3. インストール後の手順を実行します。

GUI モードでの Replication Server のインストール

インストーラは、対象ディレクトリを作成し、選択したコンポーネントをすべてそのディレクトリにインストールします。

前提条件

Replication Server をインストールするドライブに、コンポーネントをインストールできるだけの十分な空きディスク領域があることを確認します。さらに、インストール・プログラム用に 100MB 以上の空きディスク領域があることも確認します。

手順

1. Replication Server のインストール・メディアを適切なドライブに挿入するか、Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) または SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) から Replication Server インストール・イメージをダウンロードして抽出します。
2. **setup** プログラムを起動します。

インストーラが自動的に起動しない場合は、`setup.exe` をダブルクリックするか、[スタート]>[ファイル名を指定して実行] を選択して次のコマンドを実行します。`x` は、CD または DVD ドライブ名です。

x:¥setup.exe

テンポラリ・ディスク領域のディレクトリでディスク領域が不足している場合は、環境変数 TMP を *directory_name* に設定してから、再度実行します。

directory_name は、インストール・プログラムがテンポラリ・インストール・ファイルを書き込むテンポラリ・ディレクトリの名前です。 *directory_name* を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。

3. [開始画面] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。
4. Replication Server をインストールする場所を指定します。

オプション	説明
[Choose] をクリックします。	インストール・ディレクトリを選択します。表示されたウィンドウを参照し、ディレクトリを選択します。
新しいディレクトリ・パスを入力します。	新しいディレクトリを作成します。
[Restore Default Folder] をクリックします。	入力したディレクトリを使用しないでデフォルトのディレクトリに戻します。

- 選択したインストール・ディレクトリが存在しない場合は、[はい] をクリックしてインストール・ディレクトリを作成します。
- 選択したインストール・ディレクトリが存在し、すでに Replication Server のインストールが含まれている場合は、旧バージョンを上書きしようとしているという警告が表示されます。[次へ] をクリックします。

5. インストールの種類を選択します。

オプション	説明
[標準]	デフォルト・コンポーネントがインストールされます。一般的なユーザ向けです。
[フル]	サポートされるすべての言語モジュールを含むすべての Replication Server コンポーネントがインストールされます。
[カスタム]	インストールするコンポーネントを選択できます。選択したコンポーネントを実行するために一部のコンポーネントが必要な場合は、それらのコンポーネントが自動的にインストールされます。

[次へ] をクリックします。

6. 地域を選択し、ライセンス契約に同意したら、[次へ] をクリックします。
7. [Sybase Software Asset Management License Server] ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	選択内容
[ライセンス・キーを指定]	<p>次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [検索] をクリックしてライセンス・ファイルを選択します。 • 複数のライセンス・ファイルを選択するには、[Shift] キーを押したままクリックするか、[Ctrl] キーを押したままクリックします。ライセンス・ウィンドウ枠にライセンス情報が表示されます。 • ライセンス・ウィンドウ枠にライセンス情報を直接コピーして貼り付けます。 <p>[次へ] をクリックします。</p> <p>サブド・ライセンス・キーを指定する場合は、新しい SySAM ライセンス・サーバをインストールするようプロンプトが表示されます。次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [次へ] – 新しい SySAM ライセンス・サーバをインストールします。インストールの指示に従います。 • [前へ] – 同一のホストに既存の SySAM ライセンス・サーバが存在する場合、[以前に配備したライセンス・サーバを使用] を選択します。
[以前に配備したライセンス・サーバを使用]	<p>次を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ライセンス・サーバが稼働しているマシンのホスト名。 • ポート番号 (使用しているポート番号がデフォルトではない場合) <p>[次へ] をクリックします。</p>
[ライセンス・キーなしでインストールを続行]	<p>Replication Server のいずれのコンポーネントについてもライセンスを所有していない場合はこのオプションを選択し、[次へ] をクリックして続行します。</p> <p>30 日の猶予期間中は、ライセンスなしでも Replication Server コンポーネントをインストールして使用できます。猶予期間後も継続して使用する場合は、有効なライセンスを取得し、Replication Server License Installer を使用してこれらのライセンスをインストールします。</p>

sysadmin Imconfig を使用して、Replication Server でライセンスの管理に関連する情報を構成して示します。『Replication Server リファレンス・マニュアル』の「Replication Server コマンド」の「**sysadmin Imconfig**」を参照してください。

8. 必要に応じて、SySAM 電子メール構成を設定します。[次へ] をクリックします。
9. インストールの概要ウィンドウに、選択した内容が表示されます。内容を確認し、[インストール] をクリックします。
10. [サンプル Replication Server の起動] ウィンドウで、次のいずれかを選択します。

オプション	説明
[Yes]	サンプル Replication Server を設定し、起動する場合。サンプル Replication Server の設定情報が表示されます。この情報を記録します。 パスワード・フィールドには最大 30 バイト入力でき、状況に応じて次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • シングルバイト文字 – 6 ~ 30 文字を入力します。 • ダブルバイト文字 – 3 ~ 15 文字を入力します。
[No]	インストールを完了する場合。インストールした後に、フル機能の Replication Server を手動で構成し、サンプルの Replication Server を起動できます。

[次へ] をクリックします。

11. インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

次のステップ

インストールが有効であり、正しく実行されたことを確認します。

- %SYBASE%\log ディレクトリ内にあるログ・ファイルを表示し、エラーがないかどうかを確認します。有効なインストールの場合は、“ERROR” という単語が含まれていません。
- %SYBASE%\Sybase_Install_Registry ディレクトリ内の si_reg.xml ファイルの日付が現在のインストールの日付に反映されていることを確認します。

参照：

- インストール後の作業 (37 ページ)
- runserver ファイル (40 ページ)

Replication Server Data Assurance オプションのインストール

Replication Server Data Assurance (DA) オプションは、Replication Server の別途ライセンス製品として使用できます。インストール・イメージを抽出した **setup** プログラムを取得します。

詳細については、『Replication Server Data Assurance オプション・インストール・ガイド』を参照してください。

コンソール・モードでの Replication Server のインストール

インタフェースにウィンドウ操作を使用しない場合やカスタム・インストール・スクリプトを作成する場合は、コマンド・ライン・インストールを選択します。

前提条件

インストーラをコンソール・モードで起動します。インストーラが自動的に起動する場合は、[キャンセル]をクリックして GUI インストールをキャンセルし、端末またはコンソールから **setup** プログラムを起動します。

手順

コンポーネントを対話型テキスト・モードでインストールする手順は、**setup -i console** を使用してコマンド・ラインからインストーラを実行する点と、テキストを入力してオプションを指定する点を除き、GUI モードの手順と同じです。

1. コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
x:¥setupConsole.exe -i console
```

x はインストーラの場所です。

2. 表示されるメッセージに従って、Replication Server をインストールします。出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力します。

参照：

- GUI モードでの Replication Server のインストール (27 ページ)

応答ファイルを使用した Replication Server のインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

サイレント (無人) インストールを実行するには、インストーラを実行し、指定したインストール設定が含まれる応答ファイルを指定します。

応答ファイルの作成

インストール時の応答を応答ファイルに記録します。この応答ファイルは編集可能なテキスト・ファイルであり、今後のインストールで使用する前に応答を変更できます。

GUI またはコンソール・モードでインストールするときに、`-r` コマンド・ライン引数を指定することで、インストール・ウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストール・ウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。

インストール時に応答ファイルを生成するには、次のコマンドを入力します。

```
x:¥setupConsole.exe -r responseFileName
```

ここで、`responseFileName` は応答ファイル用に選択するファイル名、`x` はインストーラの場所です。応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。次に例を示します。

```
C:¥Sybase¥REP¥ResponseFile.txt
```

応答ファイルを使用した GUI モードでのインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

前提条件

インストール応答ファイルを作成します。

応答ファイルを使用した対話型インストールでは、応答ファイルによって指定されたデフォルト値を受け入れることも、別の値を入力することもできます。これは、類似はしているものの設定が異なる Replication Server の複数のインスタンスをインストールする場合に役立ちます。

手順

応答ファイルを使用して GUI インストールを実行するには、次のコマンドを実行します。

```
x:¥setupConsole.exe -f responseFileName
```

responseFileName は選択したインストール・オプションを含むファイル名選択した、*x* はインストーラの場所です。応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフル・パスを指定します。

参照：

- コマンド・ライン・オプション (34 ページ)
- 応答ファイルの作成 (32 ページ)
- GUI モードでの Replication Server のインストール (27 ページ)

サイレント・モードでのインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

前提条件

インストール応答ファイルを作成します。

サイレント (無人) インストールでは、ユーザによる操作は伴いません。また、すべてのインストール設定情報は、応答ファイルから取得されます。これは、複数の同一インストールを行う場合、またはインストールを完全に自動化する場合に役立ちます。

手順

サイレント・モードでインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
x:¥setupConsole.exe -f responseFileName -i silent  
-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true
```

構文の説明は次のとおりです。

- *x* — インストーラの場所。
- *responseFileName* — 選択したインストール・オプションを含むファイル名の絶対パス。
- **-D** — Sybase ライセンス契約の内容に同意することを指定する。

警告！ サイレント・インストール・モードで実行する場合は、`setupConsole.exe` を使用することをおすすめします。通常の `setup.exe` では、インストール・プログラムはバックグラウンドで実行されるため、インストールがすぐに終了したという印象を与えます。そのため、さらにインストールが試行されることにより、Windows レジストリが破壊され、オペレーティング・システムを再起動できなくなることがあります。

GUI 画面がないことを除けば、インストーラの動作はすべて同じです。サイレント・モードのインストール結果は、GUI モードで同じ応答を行った場合とまったく同じになります。

注意： サイレント・モードでのインストール時に、Sybase ライセンス契約に同意する必要があります。次のいずれかの方法を使用できます。

- オプション `-DAGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` をコマンド・ライン引数に含める。
 - 応答ファイルを編集して、プロパティ `AGREE_TO_SYBASE_LICENSE=true` を含める。
-

参照：

- コマンド・ライン・オプション (34 ページ)
- 応答ファイルの作成 (32 ページ)
- GUI モードでの Replication Server のインストール (27 ページ)

インストール時に発生する問題のトラブルシューティング

インストール時に発生した問題をトラブルシューティングするには、インストーラをデバッグ・モードに設定します。

インストーラを起動したら、コンソール・ウィンドウが表示されるまで、[Ctrl] キーを押し下げたままにします。インストーラによって、インストーラの問題のデバッグに役立つ追加の詳細なインストール情報が生成されます。

ヒント： いずれかのインストール・モードでのインストール中にエラーが発生した場合は、インストール・ログ・ファイルでインストール・プロセスの記録を確認してください。ログ・ファイルは、`%SYBASE%\log` にあります。

マシンに Sybase 製品を初めてインストールした場合は、インストーラによって Sybase インストール・ディレクトリが作成されます。このディレクトリには、すべての Sybase 製品のサポート・ファイルがあります。

コマンド・ライン・オプション

コンソール・モードでの Replication Server のインストールまたはアンインストールのためのオプションです。

オプション	目的
<code>-i swing</code>	GUI モードを使用する。
<code>-i console</code>	コンソール interface モードを使用する。このモードでは、インストール中のメッセージは Java コンソールに表示され、ウィザードはコンソール・モードで実行される。

オプション	目的
-i silent	製品をサイレント・モードでインストールまたはアンインストールする。インストールまたはアンインストールはユーザとの対話なしで実行される。
-D	カスタム変数およびプロパティを渡す。たとえば、インストーラの実行時にデフォルトのインストール・ディレクトリを上書きするには、次のように入力する。 <i>install_launcher_name</i> -DUSER_INSTALL_DIR=E:¥Sybase
-r	応答ファイルと参照を生成する。
-f	応答ファイルを参照する。
-l	インストーラのロケールを設定する。
-?	インストーラのヘルプを表示する。

インストール後の作業

Replication Server をインストールした後、サイトに必要なインストール後の作業を実行します。

詳細については、『Replication Server 設定ガイド Windows 版』を参照してください。

ログ・ファイル

ログ・ファイルに格納された Replication Server の設定情報を確認します。

- Replication Server インストーラのエラー・ログ・ファイル：
%SYBASE%\log
- サンプル Replication Server のエラー・ログ：
%SYBASE%\REP-15_5\samp_repserver\SAMPLE_RS.log
- サンプル Replication Server SQL Anywhere のエラー・ログ：
%SYBASE%\REP-15_5\samp_repserver\errorlog
- **rs_init** ログ・ファイル：
%SYBASE%\REP-15_5\init\logs\logmdd.xxx
例：%SYBASE%\REP-15_5\init\logs\log1106.001
- Replication Server ログ・ファイル：
%SYBASE%\REP-15_5\install\rs_name.log
例：%SYBASE%\REP-15_5\install\REP_redtail.log

RSSD 用 Adaptive Server

Adaptive Server に格納されている RSSD を起動します。

Adaptive Server Enterprise に格納されている RSSD を使用するには、Adaptive Server Enterprise データベースをインストールします (まだインストールされていない場合)。使用しているプラットフォームの『Adaptive Server Enterprise インストール・ガイド』を参照してください。

インストールが成功したら、Adaptive Server Enterprise を起動します。使用しているプラットフォームの『Adaptive Server Enterprise 設定ガイド』を参照してください。

注意： Adaptive Server Enterprise をアップグレードする予定であり、すでにレプリケート・データベースがある場合は、使用しているプラットフォームに対応した『Adaptive Server Enterprise インストール・ガイド』を参照してください。

サンプル Replication Server の設定

インストール時にサンプル Replication Server を設定しなかった場合も、インストーラによって作成されたリソース・ファイルを使用して、サンプル Replication Server を設定し、起動できます。

インストール時に、サンプル Replication Server を設定および起動するよう求めるプロンプトが表示されます。ユーザの選択内容にかかわらず、インストーラによってサンプル Replication Server 用のリソース・ファイル %SYBASE%\\$REP-15_5\\$samp_repserver\\$SAMPLE_RS.res が作成され、sql.ini ファイルが更新されます。サンプル Replication Server をインストール後に設定および起動するには、このリソース・ファイルを使用します。サンプル Replication Server のリソース・ファイルによって ERSSD が作成されます。

コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
cd %SYBASE%\$REP-15_5\$samp_repserver
rs_init-SAMPLE_RS.bat
```

設定ウィンドウに設定ステータスが表示されます。このスクリプトの **rs_init** ユーティリティによって、コマンドが実行時に DOS ウィンドウに表示され、出力がログに書き込まれます。

サンプル Replication Server の設定および起動中にエラーが発生した場合は、ログ・ファイル %SYBASE%\\$REP-15_5\\$init¥logs¥logmmdd.xxx を確認してください。

- *mm* – 月
- *dd* – 日
- *xxx* – その日のログの該当するインスタンス番号

サンプル Replication Server に関連するすべてのファイルとログは、%SYBASE%\\$REP-15_5\\$samp_repserver ディレクトリにあります。

表 6 : サンプル Replication Server の設定情報

サンプル Replication Server の項目	定義
名前	<i>SAMPLE_RS</i>

サンプル Replication Server の項目	定義
ポート	11752
ユーザ名	<i>sa</i>
パスワード	<i>SAMPLE_RS</i> の <i>sa</i> ユーザ・パスワード。 パスワード・フィールドには最大 30 バイト入力でき、状況に応じて次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • シングルバイト文字 - 6 ~ 30 文字を入力します。 • ダブルバイト文字 - 3 ~ 15 文字を入力します。
ERSSD サーバ名	<i>SAMPLE_RS_ERSSD</i>
ERSSD サーバ・ポート	11751
ERSSD ユーザ名	<i>SAMPLE_RS_RSSD_prim</i>
ERSSD パスワード	<i>SAMPLE_RS</i> のパスワードと同じ

『Replication Server 設定ガイド Windows 版』の「rs_init による Replication Server の設定とデータベースの追加」を参照してください。

sql.ini ファイルのサーバ・エントリ

dsedit ユーティリティを使用してネットワーク接続情報を修正します。

プライマリ Adaptive Server またはレプリケート Adaptive Server のいずれかが Replication Server のコンピュータ上にない場合、Replication Server の `sql.ini` ファイルのデフォルトのホスト名 "localhost" を実際のサーバ名に変更する必要があります。 `sql.ini` ファイルを更新するには、**dsedit** を使用します。

dsedit ユーティリティを使用すると、`sql.ini` ファイルに保存されたネットワーク接続情報を作成および修正できます。このユーティリティは `%SYBASE%\%SYBASE_OCS%\bin` にあります。

`SYBASE.bat` を実行して、必要な環境変数を設定してから、**dsedit** を実行します。

詳細については、『ASE ユーティリティ・ガイド』の「dsedit の使用」を参照してください。

Windows での環境変数

Replication Server インストーラでは、必要なシステム環境変数 (PATH など) と、新しくインストールした Sybase ソフトウェアによって使用されるその他の環境変数が自動的に設定されます。

環境変数は次のファイルで定義されます。

- %SYBASE%\%SYBASE%.bat
- %SYBASE%\%SYBASE%.env

Replication Server インストーラの終了後、必要に応じてこれらのファイルを使用して環境変数を再設定できます。

環境変数	説明
%LIB%	Open Client/Server ランタイム共有ライブラリへのサブディレクトリ・パス
%PATH%	Replication Server の実行に必要なディレクトリ (Replication Server 実行プログラムや OCS ライブラリなど) を含む
%SYBASE%	すべての Sybase 製品がインストールされるホーム・ディレクトリ
%SYBASE_OCS%	Open Client ファイルへのサブディレクトリ・パス
%SYBASE_REP%	Replication Server へのサブディレクトリ・パス

runserver ファイル

runserver ファイルは、Replication Server を起動するために必要なコマンド・ラインを持つ実行可能スクリプトです。新しい Replication Server を複製システムにインストールすると、**rs_init** が Sybase インストール・ディレクトリに runserver ファイルを作成します。

runserver ファイル名は、サーバの名前をもとに作成し、必要に応じて 8 文字にランケットして .bat 拡張子を付けたものです。たとえば、Replication Server の名前が ROME_RS であれば、その runserver ファイルの名前は run_rome.bat となります。

Replication Server 起動用 .bat ファイルの変更

Replication Server を起動するには、Replication Server を起動するためのコマンドが含まれているバッチ・ファイルが必要です。このファイルは、環境に合わせて変更する必要がある場合があります。

Replication Server の .bat ファイルを変更するには：

x:¥InstallDirectory¥SYBASE.bat ファイルの内容を x:
¥InstallDirectory¥REP-15_5¥repserverdir¥RUN_servername.bat
ファイルの先頭に挿入します。

- *x* – ドライブ名
- *InstallDirectory* – インストール・ディレクトリの名前
- *repserverdir* – Replication Server ディレクトリの名前。
- *servername* – Replication Server の名前

この .bat ファイルを実行すると、Replication Server のすべての環境変数を設定して、ユニークな Replication Server 製品ディレクトリを使用できるようになります。

インストール後の作業

Replication Server のアンインストール

製品をアンインストールします。

前提条件

- 管理者権限を持つアカウントを使用してマシンにログインする。
- すべての Sybase アプリケーションとプロセスを停止する。

注意： アンインストーラでは、インストール・メディアからロードされたファイルのみが削除されます。ログ・ファイルや設定ファイルなどの一部の Sybase ファイルは、管理上の目的で元のまま残されます。jre およびその他のインストールされたディレクトリも削除されません。これらのディレクトリは手動で削除する必要があります。

手順

1. アンインストール方法を選択します。
 - GUI モード (推奨)
 - コンソール・モード
 - サイレント・モード
2. 選択した方法の手順に従います。

GUI モードでのアンインストール

GUI モードで Replication Server をアンインストールします。

1. 次のいずれかを選択します。
 - [スタート]>[設定]>[コントロール パネル]>[プログラムの追加と削除] を選択します。
 - コマンド・ラインで次のように入力します。

```
%SYBASE%\sybuninstall\RepServer_Suite\uninstall.exe
```
 - [スタート]>[ファイル名を指定して実行] をクリックし、次のように入力します。

```
%SYBASE%\sybuninstall\RepServer_Suite\uninstall.exe
```

Replication Server のアンインストール

- Windows Explorer を開き、%SYBASE%\\$sybuninstall
¥RepServer_Suite に移動して、uninstall.exe をダブルクリックしま
す。
2. [次へ] をクリックします。
 3. 次のいずれかを選択します。

オプション	説明
[完全アンインストール]	すべてのコンポーネントを完全に削除します。イン ストール後に作成されたファイルやフォルダは影響 を受けません。
[特定の機能のアンイ ンストール]	アンインストールするコンポーネントを選択できま す。

[次へ] をクリックします。

4. アンインストールの概要ウィンドウに、選択した内容が表示されます。内容を
確認し、[次へ] をクリックします。

注意： インストール時に SySAM をインストールした場合、ウィンドウに
SySAM ライセンス・ユーティリティが表示されます。SySAM ライセンス・
サーバを使用する場合は、SySAM ライセンス・ユーティリティをアンインス
トールしないことをおすすめします。

[アンインストール完了] ウィンドウが表示され、削除できない項目が示されま
す。

5. [完了] をクリックします。

コンソール・モードでのアンインストール

コンソール・モードで Replication Server をアンインストールします。

1. コマンド・プロンプトで、インストール・ディレクトリに移動し、次のコマン
ドを入力します。

```
%SYBASE%\$sybuninstall¥RepServer_Suite¥uninstall.exe -i  
console
```

uninstall プログラムが起動します。

2. 表示されるメッセージに従って、Replication Server をアンインストールします。
出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力
します。

注意： 共有ファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

参照：

- コマンド・ライン・オプション (34 ページ)
- GUI モードでのアンインストール (43 ページ)

サイレント・モードでのアンインストール

サイレント・モードで Replication Server をアンインストールします。

コマンド・プロンプトで、インストール・ディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
%SYBASE%\sybuninstall\RepServer_Suite\uninstall.exe -i silent
```

uninstall プログラムが起動します。

注意： インストーラ以外で作成したファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

参照：

- コマンド・ライン・オプション (34 ページ)
- GUI モードでのアンインストール (43 ページ)

追加の説明や情報の入手

Sybase Getting Started CD、製品マニュアル Web サイト、オンライン・ヘルプを利用すると、この製品リリースについて詳しく知ることができます。

- Getting Started CD (またはダウンロード) – PDF フォーマットのリリース・ノートとインストール・ガイド、その他のマニュアルや更新情報が収録されています。
- Sybase 製品マニュアル Web サイト (<http://sybooks.sybase.com/>) にある製品マニュアルは、Sybase マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。マニュアルはオンラインで参照することも PDF としてダウンロードすることもできます。この Web サイトには、製品マニュアルの他に、EBFs/Maintenance、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、Community Forums/Newsgroups、その他のリソースへのリンクも用意されています。
- 製品のオンライン・ヘルプ (利用可能な場合)

PDF 形式のドキュメントを表示または印刷するには、Adobe の Web サイトから無償でダウンロードできる Adobe Acrobat Reader が必要です。

注意： 製品リリース後に追加された製品またはマニュアルについての重要な情報を記載したさらに新しいリリース・ノートを製品マニュアル Web サイトから入手できることがあります。

サポート・センタ

Sybase 製品に関するサポートを得ることができます。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポート・センタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

Sybase EBF と Maintenance レポートのダウンロード

Sybase Web サイトまたは SAP® サービス・マーケットプレイス (SMP) から、EBF レポートとメンテナンス・レポートを入手します。これらの場所は製品を購入した方法によって異なります。

- Sybase 認定販売店から製品を直接購入した場合：

追加の説明や情報の入手

- a) Web ブラウザで <http://www.sybase.com/support> を指定します。
- b) [Support] > [EBFs/Maintenance] を選択します。
- c) MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
- d) (オプション) フィルタ、時間枠のいずれかまたはその両方を選択して [Go] をクリックします。
- e) 製品を選択します。

鍵のアイコンは、認可されたサポート・コンタクトとして登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・センタから有効な情報を得ている場合は、[My Account] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。

- f) EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。
- Sybase 製品を SAP コントラクトから購入した場合：
 - a) Web ブラウザで <http://service.sap.com/swdc> を指定します。
 - b) [Search for Software Downloads] を選択し、製品名を入力します。[Search] をクリックします。

Sybase 製品およびコンポーネントの動作確認

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、http://www.sybase.com/detail_list?id=9784 にアクセスします。
- プラットフォームの動作確認については、<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> にアクセスします。

MySybase プロファイルの作成

MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用カスタマイズできます。

1. <http://www.sybase.com/mysybase> を開きます。
2. [Register Now (今すぐ登録)] をクリックします。

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザーが電子情報に確実にアクセスできます。

Sybase 製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンライン・マニュアルは、スクリーン・リーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

Sybase の HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティ・ガイドラインにも準拠しています。

注意：アクセシビリティ・ツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーン・リーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれませんが、詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、次の Sybase Accessibility サイトを参照してください。 <http://www.sybase.com/products/accessibility>。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

追加の説明や情報の入手

索引

A

Adaptive Server

- Replication Server システム・データベース
用 37
- アップグレード 37

C

- charsets サブディレクトリ 24
- collate サブディレクトリ 24
- CPU 要件 18

D

- D フラグと設定
 - Replication Server 33
- drepsrvr.exe プログラム 20
- dsedit ユーティリティ 39

E

- Embedded Replication Server システム・データ
ベース (ERSSD) 7, 18

G

- GUI モード
 - Replication Server のアンインストール 43
 - Replication Server のインストール 27

I

- ini サブディレクトリ 24

L

- %LIB% 40
- log.txt ファイル 24, 34

M

- Microsoft Visual Studio 2005 18

O

- OCS-15_0 サブディレクトリ 24

P

- %PATH% 40

R

- RAM 要件 18
- REP-15_5 サブディレクトリ 24
- Replication Server
 - GUI モード 26, 27
 - アンインストール、前提条件 43
 - 応答ファイルの使用 26
 - コマンド・ライン・モードでのインスト
ール 26, 32
 - コンソール・モード 26, 31
 - コンポーネント 7
 - サイレント・モード 26, 33
 - サイレント・モードでのインストール、
無人 32
 - 詳細 7
 - ライセンス 10
- Replication Server のコンポーネント 7
- Replication Server 設定ガイド Windows 版 5
- rs_init ユーティリティ 38

S

- SAP サービス・マーケットプレイス (SMP) 10,
27
- si_reg.xml ファイル 24
- Sybase IQ InfoPrimer 16
- Sybase_Install_Registry サブディレクトリ 24
- %SYBASE_OCS% 環境変数 40
- %SYBASE_REP% 環境変数 40
- SYBASE_SAM_CAPACITY 18
- SYBASE.bat ファイル 24, 40
- SYBASE.env ファイル 24

索引

Sybase インストール・ディレクトリ
内容 24
%SYBASE% 環境変数 40
Sybase 製品ダウンロード・センタ (SPDC) 10,
27
sybuninstall サブディレクトリ 24
SySAM 27
FLEXnet Publisher 12
IPv6 の設定 12
サブキャパシティ・ライセンス 12, 16
ライセンス・サーバ・バージョン 12
ライセンスのチェックアウト 13
SySAM サブキャパシティ 16
稼動条件 18
SySAM ライセンス・サーバ 12
SySAM ライセンス・モデル 10
SYSAM-2_0 サブディレクトリ 24
sysamcap ユーティリティ 10

あ

アップグレード
Adaptive Server Enterprise 37
アップグレード時
混合バージョンの環境 9
アンインストール
GUI モード、Replication Server 43
コンソール・モード、Replication Server
44
サイレント・モード、Replication Server
45

い

インストーラ
カスタム・インストール 25, 27
起動時のエラー 27
通常のインストール 27
標準インストール、通常 25
フル 25
フル・インストール 27
インストール
GUI モード 27
Replication Server Data Assurance (DA) オプ
ション 31
Replication Server システム・データベー
スの Adaptive Server 37

Replication Server、-D フラグの使用 33
開始 27
概要 5
計画 9
サイレント・モードまたはコンソール・
モードでのトラブルシューティ
ング 34
タスク・フロー 5
標準のソフトウェア・コンポーネント 27
ログ・ファイル、Replication Server 34
インストールが正しく実行されたかどうかの
確認
Replication Server で 27
インストール後の作業
Replication Server 37
インストール後のログ・ファイルの確認 37
インストール・ディレクトリ
内容 24
インストールの種類
カスタム 25, 27
通常 25
標準 27
フル 25, 27
インストール方法
Replication Server 27
インストール前の作業 9

え

エラー
インストーラの起動時 27

お

応答ファイル
Replication Server、作成 32
インストール、Replication Server 26
コマンド・ライン・モードのインストール
26
オペレーティング・システム
Service Pack の要件 20
Service Pack のレベル 20
Service Pack のレベルの確認 20
オペレーティング・システムの稼働条件 18

か

開始

インストール 27

概要

SySAM サブキャパシティ・ライセンス
10

SySAM ライセンス 10

インストール 5

カスタム・インストール 25, 27

環境変数

%LIB% 40

%PATH% 40

%SYBASE_OCS% 40

%SYBASE_REP% 40

%SYBASE% 40

dsedit に必須 39

SYBASE_SAM_CAPACITY 18

設定 40

環境変数の設定 40

管理作業 26

き

起動

サンプル Replication Server 38

く

グラフィカル・ユーザ・インタフェース (GUI)
インストール 26

こ

コマンド・ライン・インストール

Replication Server 32

混合バージョンの要件 9

コンソール・モード

Replication Server のアンインストール 44

Replication Server のインストール 31

応答ファイル、Replication Server のインス
トール 32

トラブルシューティング 34

さ

サイレント・モード

Replication Server のアンインストール 45

サイレント・モード・インストール

Replication Server 26, 33

応答ファイル、Replication Server のインス
トール 33

トラブルシューティング 34

作業、管理 26

作成

Replication Server の応答ファイル 32

サブディレクトリ

charsets 24

ini 24

OCS-15_0 24

REP-15_5 24

Sybase_Install_Registry 24

sybuninstall 24

SYSAM-2_0 24

サポートするプロトコル 18

し

システム稼働条件 18

せ

製品エディション、タイプ 14

そ

ソフトウェア、問題の診断 20

ソフトウェアの問題の診断 20

た

対話型モード

応答ファイル、Replication Server のインス
トール 26

つ

通常インストール 27

て

定義

runserver 40

ディスク領域の要件 18

索引

ディレクトリ

- Sybase_Install_Registry 27
- インストール、構造 20
- デフォルト 27

デフォルト・ディレクトリ 27

と

トラブルシューティング

- コンソール・モードまたはサイレント・モードのインストール時 34

は

バージョンの制限、アップグレード時 9

ハードウェアの要件 18

ひ

表

- システム稼働条件 18

表記規則

- 構文 1
- スタイル 1

標準インストール 25, 27

ふ

ファイル

- log.txt 24, 34
- runserver 40
- si_reg.xml 27
- SYBASE.bat 24, 40
- SYBASE.env 24, 40
- インストール・ログ、Replication Server 27, 34
- バッチ 41

複製システムのプラン作成 5

フル・インストール 25, 27

プログラム

- drepsrvr.exe 20

へ

変更

- remove si_reg.xml ファイル 24

Replication Server 起動用バッチ・ファイル
41

ゆ

ユーティリティ

- dsedit 39
- rs_init 38
- sysamcap 10, 18

よ

要件

- CPU 18
- RAM 18
- オペレーティング・システム 18
- オペレーティング・システムの Service Pack 20
- ディスク領域 18
- ハードウェア 18

ら

ライセンス

- Sybase Control Center 15
- Sybase IQ InfoPrimer の統合 16
- サブキャパシティ 16, 18
- 取得 10
- タイプ 14, 16
- プロセッサの数のチェック 13
- ライセンス・モデル 10

ライセンスの取得 10

り

リリース・ノート 9

ろ

ログ・ファイル、インストール後の確認 37